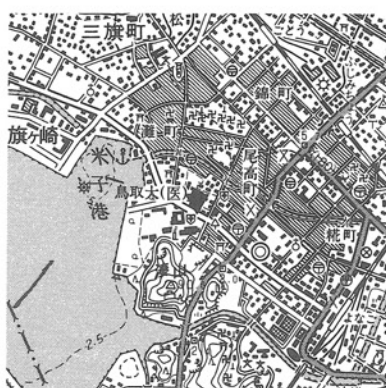


鳥取・米子城跡六遺跡

- 1 所在地 鳥取県米子市西町
- 2 調査期間 一九九四年(平6)四月～一九九五年六月
- 3 発掘機関 (財)鳥取県教育文化財団
- 4 調査担当者 湯村 功・志田 睦
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(米子)

米子城は中海の入り組んだ湾(米子港)に接する丘陵部に築かれ、その北東部に武家屋敷などが展開する。六遺跡は其中でも西側に位置し、県道拡幅に伴う細長い調査区である。

遺構・遺物は主に弥生時代終末～古墳時代初頭、奈良～平安時代前期、中世後期から近世にかけてみられ、近世以降のものもつとも量が多い。近世の遺構としては井戸、貝溜りや廃棄土

坑などが検出されているが、ここに展開していたであろう屋敷地などの状況を把握するまでには至っていない。

遺物は陶磁器類を主体とするが、木製品も多い。漆器碗や下駄、桶などの生活用品が大半を占め、木簡は三点のみであった。そのうち一点は廃棄土坑と考えられるSK〇二からで、陶磁器類の他、曲物や建材と考えられる木製品とともに出土した。このほかの二点はいずれも包含層出土である。

8 木簡の积文・内容

SK〇二

- (1) ・「。日ノ谷川村新兵衛

・「。 (140)×23×10 019

包含層

- (2) ・「 」

・「村多吉」 (83)×19×5 051

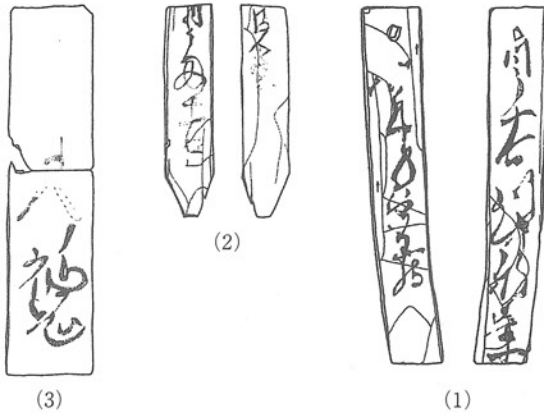
- (3) 「大福鬼」 (144)×(35)×(7.5) 011

(1)は下端が欠損か。若干弧状になるものの短冊状を呈す。上端中央に穿孔がある。裏面は判読不能。

9 関係文献

(2)は下端部を尖らせたもの。裏面には削った痕跡が残る。
 (3)は短冊型。下部の三文字しか見えない。まじない札か。
 (財)島根県教育文化財団『米子城跡6遺跡』(一九九六年)

(中森 祥)



島根・山持遺跡(Ⅱ・Ⅲ区)
ざんもち

- 1 所在地 出雲市西林木町
- 2 調査期間 二〇〇三年(平15)五月～十二月、二〇〇四年五月～十一月
- 3 発掘機関 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 池淵俊一
- 5 遺跡の種類 集落跡・自然流路・水田跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



山持遺跡は出雲平野の北麓に位置し、奈良時代の神社建物などが検出され著名となった青木遺跡の西約2kmに位置する。遺跡は東西2km南北500mの範囲に及んでいる。今回検出した主な遺構としては、弥生時代の自然河道・柵列・溝・土坑、奈良時代の畠状遺構・道路状遺構、中世後期の自然河道な